

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームよろこびの家茉景 1階	評価実施年月日	平成20年1月1日
評価実施構成員氏名	高谷・松永・竹原・滝田・三浦・内田・塚本・石田・明上		
記録者氏名	高谷満代	記録年月日	平成20年1月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>毎朝、朝礼で美景理念を読み上げており職員には浸透されている。又、新規採用者に対しても理念が浸透して行く様に説明を行なっている。</p>	<p>理念については、抽象的な文面もあり分かりづらいと思っている職員もいる。今後は、全職員から意見をとり、自分達が目指す事や入居者様や家族の方も分かりやすい理念を作って行きたいと思います。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を館内に提示し、朝礼時に唱和している。また、スタッフルームにて理念とその意味を提示している。いつでも理念を念頭に置く事を目的にして、日々の介護・自分・他の職員にも注意し合える環境を作っている。新人オリエンテーションの際には特に理念の大切さと意味の理解に努めている。</p>	<p>理念を実行していくには、1、ご本人の心に寄り添い、生き生きと笑顔ある生活が送れるように支援する。2、なじみある生活空間を作り、ご本人の力が可能な限り発揮できる様に支援する。3、地域とのふれあいを通し、自由で豊かな心と生活が保てるように支援する。4、家族の方が安心と満足を得られ、ご本人との楽しい時間が過ごせる様に支援する。以上の事が出来ているか、常に職員と話し合いを行っています。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>広報誌に理念を掲載したり、運営推進会議でも理念の大切さを述べている。</p>	<p>運営推進会議では説明を行っているも、現状、御家族への理念の浸透は十分では無く、今後も、理念の説明を行っていく必要がある。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近所の方や子供達には挨拶は行っているが、まだ気軽な付き合いが出来ているとは言えない。又、ホーム内で行う行事の時には、ご近所の方へ挨拶文を作り1件ずつ尋ねて説明を行い、参加して頂けるようにお誘いしている。</p>	<p>散歩時など、お会いした時は挨拶をするように職員間で徹底している。近所の方が気軽に来設して頂ける様にしていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町会の夏祭りに参加したり、近くの幼稚園の園児たちがホームに来て歌や踊りを披露してくれたり、入居者様と一緒に手遊びをしてくれたり、近くの中学校と高校の音楽部の方たちがボランティアで合唱を聞かせてくれる、ボランティアで近所の方がマジックショーを見せてくれたりと交流を持っている。</p>	<p>これからも地域で行われる活動に参加していき、地域との交流を大切にしていきたい。又、地域での役割やグループホームをより理解して頂けるように取り組んでいきたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域のお役に立てるよう、町会主催の夏祭りに参加している。町会長さんとも参加できる事がないか、常に話をして町会の行事に参加できるように取り組みしている。</p>	<p>今後は、夏祭り以外にも参加をして交流を深めていく必要がある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価及び外部評価についての意義をスタッフ会議等で話し合い理解している。評価の結果を生かし、具体的な改善に努め、同じ指摘を受けないようにしている。</p>	<p>職員一人一人が評価の意義を理解する為に、評価の結果が出たらスタッフ会議で、その都度話し合いを行っていくようにしている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に一回運営推進会議を行い、そこでの意見を今後のサービス向上に繋げて参加者の意見や質疑応答で情報共有化を行っているが現在、参加者数が少なく今後どのように会議をすすめてよいか検討している。</p>	<p>ご家族の参加が少なく、意見交換が思うように行えない状況である。開催時間や日程の見直しや参加しやすいような環境を作りサービスの向上につなげて行きたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>現在、市町村主催の勉強会に参加しているが運営推進会議に限られている。</p>	<p>今後、市町村と連携を図りサービス向上に取り組んで行きたい</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、権利擁護を必要とする入居者様がおられない為、同制度の活用は行っていない。</p>	<p>今後は必要な制度を利用する入居者様が増えてくると考えられるので、権利擁護を職員の誰もが説明できる体制を整えていく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>当施設、全グループホーム内で身体拘束廃止委員があり毎月、会議を開き防止に努め職員は利用者様の尊厳を大切に虐待防止に努め職員一人ひとりが起こさないためにはどうしたらよいかをスタッフ会議や身体拘束廃止委員会でも話し合いをしている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会のなかで事例検討を行い、身体的な虐待だけでなく、言葉の持つ意義も話している。今後も身体拘束廃止に努め、新規採用者には高齢者虐待の感想文を書いてもらっている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>御本人と御家族の理解を得ながら契約、解約を行っている。入居時や退去時だけでは十分に伝わらない事もその都度納得いくまで説明対応している。また、不安や質問をしていただきやすいように丁寧な対応を心がけている。</p>	<p>その都度、ご家族・入居者様と話す機会を設け相談に助言が出来るようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様から苦情や意見があれば、すぐにスタッフ会議を開き解決に結びつけるように対応している。情報を共有し、苦情の原因追及・改善策を話し合っている。対応後の情報もご家族や関わった全職員で共有できるように努めている。又、苦情相談窓口が明確にされている。		ユニットだけで情報共有するのではなく、当法人のグループホームで情報を共有するため、全グループホームの管理者の会議にて詳細を説明している。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態に変化がある時は都度電話連絡行い、面会時には暮らしぶり・健康状態・催し等を伝えている。面会になかなか来れない家族には電話で随時報告している。金銭に関しては、面会時などに説明を行ったり、請求書を送る時に領収書のコピーと現金出納帳のコピーを同封して送付している。職員の異動に関しては面会時に説明している。		健康状態については面会時の他、定期的にご家族に報告等を行っていくことで安心して頂けるよう努めており、ご家族が見えられた際に入居者様について職員の誰もが報告出来るよう体制を整えている。金銭管理は管理者が行っており、各階の管理者が1週間に1回違う階の金庫の確認を行っている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族から苦情や意見があれば、すぐにスタッフ会議を開き情報を共有し、苦情の原因追及や改善策を話し合っている。又、苦情処理簿を作成し、苦情の内容・それに対する対応やその後の状況等の情報が共有出来るように努めている。		そのユニットだけで情報共有するのではなく、当法人のグループホームで情報を共有するため、全グループホームの管理者の会議にて詳細を説明している。又、同じ苦情を受けない様に努めている。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議や個人面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、会議等で出た意見は業務などに反映させている。		職員が今後より一層意見を出せる様に環境を整えていく。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	催し物等では職員の人員数を手厚くしており、また入居者様のご要望や状況の変化においては、その都度、勤務時間を変更できる体制を確保している。		今後は、必要に応じた勤務時間の変更を、職員と検討していきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職や異動の希望があった場合、個人面談で理由を聞きやむをえない理由でない場合はそのユニットに残れるように原因を取り除ける様に対応している。異動や退職があるときは、一度に職員が変わり入居者様が混乱しないように異動、退職予定日を調整している。		やむをえない退職による、入居者様へのダメージを最小限に抑える対応策を考えていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>ホーム内外の研修参加への呼びかけは全職員に行っている。率先して勉強したい職員には勤務調整を行い職員育成に努めている。報告書を作成して他の職員にも共有できる様にしている。</p>	<p>職員が研修や勉強会へ興味を持って参加できる様に管理者側で必要性を伝えていく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域をブロックごとに分けており、その中での勉強会や交流する機会を設けている。南北北海道の研修会や管理者だけの集まりもあり、同業者同士の質問などが出来るように交流を取っている。また、当法人内ではパソコンを使い、メール・掲示板等で情報交換を行っている。</p>	<p>出来る限り、他の同業者と密に連絡したり、意見の交換、勉強会の他、管理者だけでなく全職員が見学に行けるようにしたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>毎月スタッフ会議を開き意見交換を行っている。又、必要に応じて個人面談を行ったり、職員の言動や行動からストレスがないか職員からの情報も聞き取っている。</p>	<p>職員同士のコミュニケーションが必ずしも十分に図れていない部分がある為、管理者を中心にストレスの軽減が出来るよう、働きやすい環境づくりに努めていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>定期的な人事考課と面談を行い職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が常に向上心を持って働けるよう努めている。</p>	<p>年一回の人事考課の実施と必要に応じ面談行い一人ひとりの状況に応じアドバイスを行っている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者と管理者が中心になりご本人と面談し十分話を聴き、不安や求めている事を受け止める努力をしている。</p>	<p>入所後はスタッフ会議やカンファレンス会議で話し合い、入居者様の求めている事や不安な事を職員間で情報を共有し今後のケアに繋げている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者が、家族との面談の時に現状や困っている事・不安な事などを聴き今後についての相談・助言をし受け止める努力をしている。</p>	<p>誰でも気軽に相談・見学に来られる様に、事前連絡なくても受け入れその時に困りごとなど十分聴いて助言を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様一人ひとりの過去の経験を活かしたケア・サービスに向けて情報収集に努めている。昔の仕事を思い出している方には、それを感じ取れる工夫を職員が考えて、無理なく行っていただいている。		収集した情報から入居者様に合ったケア・サービスを検討する。個別運動的なことも関連させて、昔行っていた・得意だった・趣味などを取り入れると一層、その方の残存能力が生きてくるので、実践して行きたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が馴染めるように、在宅で使用していた物を出来るだけ居室でつかう様にしている。また、その方が今一番必要としている事を重視しながら観察を行い、入居時には小さな情報から職員みんなで考え、入居者様本意の生活を目指している。		入居者様が今まで培ってきた生活や習慣をなるべく変えないように努めることで、極端な生活の変動を防ぎ、混乱もすくなく、精神的にも落ち着いた生活が送れている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	普段の何気ない会話から、表情を汲み取り、入居者様が遠慮なく安心して生活できる様に、入居者様の昔の話を聞いたりして信頼関係を深め、入居者様と支えあっている。		入居者様が本来もっている能力が、維持出来るように関わり、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を職員と共に分かちあっている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の要望は可能な限り直ぐに取り入れて入居者様に対応し職員と家族の方が一緒に入居者様を支えていく関係を築いている。ご家族の事情であまり面会に来られない方もいるので、その方には入居者様の普段の生活状況を詳しく説明し、ご家族から支援の要望があればその都度対応している。		ご家族へは、面会時や電話などで状況を説明して安心できる様に努めている。現在は何が出来て、何が出来ないのかなど心身の状況を報告、必要時には介護用品なども家族と検討している。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者様の現在の状況報告を面会時になどに行っており、面会に来られないご家族には、管理者が電話などで連絡を取りながら御本人とご家族との関係がより良い関係に築いていくよう支援している。		面会に来られないご家族には管理者が電話などで入居者様の状況報告を行っている。又、状態変化や緊急時、ご家族に協力して頂かなければならない事など速やかに連絡をとる体制が出来ている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御本人が入居時、入居後もこれまでに大切にしてきた物、必要な物などは出来るだけ御本人の身近に置いて頂いている。又、昔からのお友達が面会に来やすい雰囲気を作ったり、昔から行っていた美容室、お店など馴染みの場所に本人の希望があればお連れしている。		今後も継続し御本人の馴染みの物、場所、環境など決して関係が途切れないよう支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲のいい入居者様に同じテーブルに座っていただき、一人である入居者様には職員が話しかける等し、孤立しないよう1人1人に合わせたケアを行い、共に支えあえるよう努めている。		レクリエーション等で、入居者様同士が関わりを持てるよう努めている
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在、サービス利用が終了しても継続的な関わりを必要とする入居者様がない為、評価困難である。		今後、希望される方には、きちんと対応が出来る体制を作っていく。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的カンファレンスを行い、希望や意向を把握し、入居者様の自由を尊重し常に見守りを行っている。		1人1人の暮らし方について、ご本人、ご家族と話し、カンファレンスなどで職員間で話し合い検討を行っている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご家族、ご本人、関係者に生活暦や、必要事項を把握しフェイスシートを作成している。		ご家族が面会に来られた際に、ご家族から情報収集を行っている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝・昼・夕の申し送りのなかで、過ごし方や心身状態を伝え把握しており、本人の意思を尊重し、ご本人に合わせた生活を支援している。		1人1人の1日の過ごし方、表情がわかるように記録入力し、何か変化があった場合には、パソコンで職員に伝言を行っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的な話し合いや、必要に応じて会議を開き、介護計画に反映するよう心掛けている。		3ヶ月ごとの見直しを行い、カンファレンス会議、モニタリング後、必要事項の追加や終了を行い、ご家族の意見を尊重している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に見直しが行われ、状況変化に対応した介護計画の見直しがなされている。また、変化があった場合にはその都度ご家族、関係者に連絡し、カンファレンスを開き、介護計画書の見直しを行っている。		介護支援専門員は、カンファレンス会議、モニタリングを行い現状の把握、ご家族、ご本人からの話を聞いて、ケアプランにつなげている。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々のケアの記録が毎日行なわれ、全職員が情報を共有できるようになっており、職員間の情報交換として、パソコンが使われている。		パソコンを使用し、毎日の様子を記録入力し、その都度記録を印刷し残している。過去の記録がいつでも見れるようになっている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人や、ご家族の要望に答えられるようにその都度話し合いを行っている。		ご本人、ご家族の要望が聞かれたときは、当法人の他事業所と連携をとり出来る限り答えられるように努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアや町内会の方々の協力により、こちらの行事への参加や、町内会の行事(夏祭り)への参加をしている。防火訓練を年2回行い消防署に協力して頂いている。		地域の資源の活用に偏りが見られ、今後は多方面と協力、理解が得られるよう、柔軟な支援が出来る様に努めていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他サービス事業者を利用して頂けるよう必要な情報提供を含めた支援をその都度行っている。また、地域の他のケアマネージャーとの連携体制もとっている。		今後は、必要に応じて活用できるような支援体制の確立が必要と思われる。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護やケアマネジメントについて御本人の意向や必要性により地域包括支援センターと連携・協働できる体制は整えられているが、今のところ利用されている入居者様はおられない。		今後、多様化する入居者様のニーズに応えるためにも地域包括支援センターとの連携・協調体制を強化していく必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者様はかかりつけの医療機関があり、定期的な受診の支援を行っている。また、日常的な健康管理は週一回医療連携看護師が訪問し医療との連携が取れている。		ご家族や御本人のご希望に応じ昔から通院されている医療機関や主治医を選択して頂いている。また医療連携看護師が週一度、健康チェックの為に来設されており、容態変化等あれば、すぐに電話連絡をし、その都度指示を頂いて対応しています。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	家族と相談し担当医へ受診時に相談を行っている。		担当医への受診時、相談やアドバイスを受けている。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携による看護師が健康管理・相談等の支援を行っている。また、体調の変化があれば、その都度連絡を取っている。		入居者様の健康状態に変化があれば、医療連携の看護師に随時相談している。又、看護師は専用のPHSを持っており24時間体制で相談ができる体制が整っている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	管理者が入院先の病院と連絡・相談を行い、退院に向けて、支援し、日頃から医療機関との連携をとっている。		入院先の病院と病状の事やいつ頃退院できるのか聞き早期退院に向け主治医と連携をとり今後の対応など話し合いを行っている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	担当者会議のなかで重度化した場合や、終末期について主治医や医療連携看護師や家族と話し合いを行い、方針を共有しているが、全ての主治医と連携がとれているとは言えない。		担当者会議に医療連携の看護師が参加し、ご家族の終末期の希望を聞き相談や説明を行っている。現段階では看取りを行った経験はないが、御家族、入居者様の要望に応えるべく各種サービスと連携をとって対応していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	担当者会議のなかで「できること・できないこと」を話し合い、主治医を中心に今後の変化に備え検討を行っている。		今後も医療機関と連携を取りながらチームとして支援をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の居宅へ移り住む際や、入居の際は必ず前の居宅・自宅の関係者に入居者様本人の情報収集を行い、住替えによるダメージを最低限に抑える様、努めている。</p>		<p>入居の際だけでなく、退居される方には、今後も安心して生活を送って頂ける様、御家族や居宅や他施設のケアマネージャーへの情報提供を行って行きたいと思う。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者様の羞恥心に配慮した対応に努めており、議事録などでは入居者様の名前を出さずに居室番号で記入している。</p>		<p>個人情報や記録などは鍵のかかる場所に保管している。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定が出来るような声掛けを行ったり、一人ひとりに合わせた説明を行なっている。</p>		<p>お茶の時間や食事の時間には、ご本人の好きな物を選んでいただいている。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>1人1人のペースを大切に、希望に添った支援を心掛けている。</p>		<p>その日の希望にそった援助を行っているが、まだ十分とは言えない。今後は更なる個別対応を心がけ援助していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理美容や馴染みの美容院など、個々の希望に添った対応をしている。また、着替えの際はご本人の好きな服を選んでもらい、行事や外出の時などに化粧をするなどの援助を行っている。</p>		<p>ご本人の希望に合わせ、買い物の付き添いや美容室への送迎を行っている。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者様の好きな食べ物を聞いて献立を作ったり、好き嫌いを考慮している。また、食事の準備や、後片付けを一緒に行っている。</p>		<p>ご本人の嗜好に合わせて、個別に対応している。又、駐車場でパーベキューをしたり、外でお弁当を食べたりと食事を楽しんでもらえるように心がけている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒に関しては、ご家族・主治医の了解のもとで支援を行っている。おやつに関しては、食べたいものを聞いて希望を取り入れている。		季節にあったお菓子や入居者様が好むお菓子などを提供している。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	1人1人の排泄パターンや習慣を把握し、失敗した時は、自尊心を傷つけないように速やかに片付けをして、気持ちよく排泄が出来るように支援している。		定期的なトイレの声かけや誘導を行い、トイレで排泄できるようにして、オムツの使用を減らしている。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴前に声かけを行い、希望を取り入れながら入浴して頂いている。又、入浴を好まない方には声かけの仕方を変えるなど対応している。		曜日や時間帯に関係なく入浴して頂いている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	毎回、個々に合わせた声かけを行い、応じられたら就寝の準備をしている。起床や就寝は個人差があるので、個々に合わせた対応をしている。		昼寝の時はベッド以外にもソファや畳の間など好きなところで休んで頂いている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その人の能力に応じた家事作業をして頂いたり、好きな音楽を聞いたり、歌うなどをして楽しんでもらえるように支援している。		1人1人の能力を見極め、食器拭きやモップかけ、おやつや買い物の配膳などを行って頂いている。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の出来る入居者様にはご自分で行って頂き、管理困難な方は管理者が保管している。		ご家族から預かったお金については、病院受診や買い物などで使った場合は領収書を台帳に貼り、帳簿に記入している。ご家族が面会に来られた時は台帳の確認をして頂いたり、請求書を送付する時に領収書と帳簿をコピーして一緒に送っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居様が希望された時や天気のいい日には外出や散歩に行かれている。又、行事でドライブ等に行く事もある。普段、外出なさらない方にも、声かけを行い、ホーム内にこもらないように努めている。		天候の良い日には、出来るだけドライブや散歩などの声かけを行い戸外へ出かけられるように、今後も支援していく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者の自由を尊重する為、行きたい所があれば行けるように支援している。ご家族からも協力を得て、外泊や外出をされている。		今後も、入居者様1人1人の希望があれば出来る限り支援していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホーム内に公衆電話を設置しており、いつでも電話が掛けられるようになっている。手紙のやりとりも自由に出来るようになっている。		職員の守秘義務を徹底し、個人情報の保護に努める。更に、入居様が希望されたときはすぐに取次ぎ、連絡が出来るようにしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時には、挨拶を行い明るい雰囲気ですべて気軽に訪問できるように心がけている。ホーム内も落ち着いた雰囲気ですべて心地よく過ごして頂けるように心がけている。		常時、ホーム内・居室等の清掃や環境整備を行うように心がけている。又、職員の挨拶も明るく元気に行うように日々声かけしあっている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内で身体拘束廃止委員会を設立し、全職員に対して身体拘束への意識を高めるように努めている。		身体拘束についてユニットでも取り組んでおり、職員1人1人が心がけ、職員同士でも声を掛け合いチームケアとして今後も取り組んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間のみ防犯の為に、玄関は施錠している。日中は、玄関に鍵を掛ける事はなく開放している。		鍵をしていない為自由に出入りが可能である。もし入居様が一人で出て行かれようとしても決して止めはせずスタッフも一緒に同行し散歩などして又戻って来るというさりげない支援を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ホールには、必ず職員が1人いるようにしており、職員が離れる時は声かけを行い連携が取れるように心がけている。又、入居者様のプライバシーに配慮した関わりを行っている。		入居者様のプライバシーに配慮しながら、安全確保の為に見守りや声かけを行っている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁や洗剤などは、使用后物品庫に保管して施錠している。薬などは、事務所で保管しており、鍵のかかる場所に保管している。		入居者様が、使用する時は職員と一緒に付き添い行っている。他の物品については鍵のかかる所へ保管している。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事業所内で事故防止委員会を設立しており、全職員へ事故への知識や意識を高める様、指導している。また、緊急時や火災時等へのマニュアルも完備されており、日頃から、管理者を中心に、マニュアルの把握に努めている。		インシデント・アクシデントが発生した際は、早急にスタッフ会議を開催し原因の解明を行っており再発防止に努めている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時の対応マニュアルを作成しているが全職員が対応出来るとは言い難い。	○	今後は定期的に勉強会等を行い、職員への参加を徹底していき、重要性を理解してもらう必要がある。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は消防署の協力のもと、年2回行っているが、利用者様が確実に避難できる方法は身につけていないと思われる。	○	現在、消防署と訓練を行っているが、今後は近隣住民の協力を得られるよう働きかけて行きたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時や担当者会議で今後起こり得るリスクを医療・介護の立場で家族等に説明し対応策を話し合っている。		面会時や担当者会議で今後起こり得る、リスクや症状を説明して、今後について家族と話し合いしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者様の体調の変化や異変があった時は、医療連携看護師へ相談・連絡をして指示を頂いたり、担当医へ連絡している。日々の中で、入居者様1人1人の状態について、申し送りを行い職員同士も情報の共有を行っている。		体調の変化や異変に気づいた際は、医療連携看護師や担当医と早急に連絡を取り合いながら対応していきたい。又、職員同士の情報の共有を密に出来るように今後も取り組んでいきたい。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方箋を見たり、申し送りで入居者様の服薬の状況を把握している。服薬する際は見守りを行い、その人にあった用法・用量を守れるように見守り介助を行っている。		服薬される前に、間違いがないように名前や朝・昼・夕食後薬の確認を行っている。薬の変更や新しく処方された場合は、パソコン等にて職員に情報を伝えている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	申し送りや排便表を活用して、職員が入居者様の排便の状況を把握している。予防の為に適度な運動を行ったり、乳酸菌や食物・水分の摂取を促したりと対応を行っている。		便秘については、担当医と相談しながら下剤の調整を行っている。又、医療連携看護師へも相談したりしながら対応している。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時・毎食後の歯磨きや義歯洗浄・うがいの声かけや介助を行っており、口腔内の清潔を保っている。口腔内の痛みや発赤が見られた時など、必要に応じて歯科受診や往診も行っている。		起床時や毎食後の歯磨き・うがいに取り組んでおり、今後も声かけや介助を行いながら対応していく。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事のバランスを考えながら献立を作成しており、水分も随時摂取して頂くように声かけ、促している。記録を使用して、入居者様の水分・食事を把握している。		以前は栄養士の管理の下、献立が組まれていたが、現在は入居者様の嗜好や現在ある食材でバランスよく調理されており、職員全員で栄養バランスを管理している。水分量についても体の状態や本人のその時の気分を大切に考え水分摂取していただいている。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症については、症状別にマニュアルを作成している。また、医療連携と協力して予防に努めている。又、外出後のうがい・手洗いの徹底を心がけている。		症状別にマニュアルを作成しており、医療連携と協力し対応・対処している。病気や感染症についての知識や理解力を養う為、勉強会を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食中毒予防の為のマニュアルを作成し、台所や調理器具は毎日消毒、漂白を行っている。食材は毎日傷んでいないかチェックを行い管理している。</p>		<p>台所用品やまな板等、漂白殺菌や熱湯消毒を毎夕食後行う事により食中毒予防・衛生管理を行なっている。食材に関しても賞味期限の管理などを行っている。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関を入れてすぐにソファを配置しており、来客にくつろげる空間になっている。又、絵や入居者様が作った作品を掲示したり工夫をしている。</p>		<p>玄関前には、スロープを配置しており、ホーム内もバリアフリーにするなど工夫している。又、玄関前には、もみじの木を植えており、季節感を出している。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者様に快適に生活を送って頂けるように、季節に合わせた飾りつけをしたり工夫をしている。換気や温度調整も随時行っている。</p>		<p>季節がわかるような物を飾る事により(正月の飾り餅や七夕の笹・短冊等)季節感を味わっていただいている。その他にも共有の空間では不快な音や目障りな光が出るようなものは設置しておらず、有意義な時間が流れるよう環境づくりを配慮している。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人になれる空間として、入居者様の居室があり、楽しく交流できる空間としてはホールや廊下に、数々の椅子を設置しており、好きな場所で自由に話し合いを行う事が出来る。</p>		<p>ホールやソファにて親しい友人同士、気軽に話す場面等が見られており、楽しく過ごして頂いている。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時には極力、本人の使い慣れた品物を持ってきて頂く様、御家族に促している。その事により、仏壇や昔から使用している椅子・食器等を持ってきている利用者様が多数である。</p>		<p>本人の使い慣れた物(食器・タンス・椅子)等を持って来て頂く事により、安心して過ごして頂いている。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>トイレは毎日掃除しており、オムツなどを捨てる時は、新聞紙に包んで匂いが出ないように配慮している。生ゴミも匂いがしないように、新聞紙に包んで捨てている。温度調節は、随時行っており換気もしている。</p>		<p>昼夜を通して換気を行い、入居者様の日々の状態に合わせて温度調節を心がけている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内は、バリアフリーになっており、手すりもついている。お風呂も手すりや滑り止め用の床になっている。トイレにも手すりがあり、入居者様にとって安全で自立した生活が送れるように工夫されている。</p>	<p>手すりだけに限らず椅子、テーブルなどの配置にも気を配り入居者様が何処に何を置いたら楽につかまって立ち上がれるか、歩けるかなど考え身体機能を活かした安全な環境づくりに取り組んでいきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>食堂と居室がわかれているので、混乱が少なく移動はされている。トイレが5つあり、何処にあるのかわからない入居者様もいるので、声かけや誘導・見守りを行っている。</p>	<p>入居者様が混乱している時は、都度、声かけをしながら、出来る事は本人に行って頂くように支援している。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ウッドデッキは、日光浴を行ったり、散歩するなど活用している。ホームの駐車場でバーベキューや花火をしたり、椅子を置いて日光浴や体操するなど活用している。</p>	<p>夏場は、ウッドデッキや駐車場を活用しているが、冬場は使用していない。今後は、冬場でも何か楽しんで頂けるような工夫をしていきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>入居者様一人一人の思いや希望が生かせる様に努めている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>時間にとらわれないケアを目標とし、入居者様がゆったりと過ごして頂ける様に努めている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>入居者様一人一人の思いを尊重し、その人のペースを乱さない様に努めている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>家事作業などは、声かけをして手伝って頂いたり、一緒に歌を唄うなどをする事で生き生きとした表情がみられている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>希望に応じて外出しているが、全員とまでは行かない。今後、全員に対して行っていけるように努めて生きたい。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>医療連携看護師と24時間、常に連絡が取れる体制整えている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>その時々々の状況に応じ柔軟に対応している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>面会時やご家族からの連絡があった時は話を聞いたりしながら、信頼関係が築けるように努めている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>たまに、近所の方が来られる事はある。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	都合により参加できないご家族や関係者もおられる為、理解が増えているとはいえないが、少しずつだが参加が増えてきており理解や興味を持ってきて頂けているものと思われる。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	認知症対応の仕事を身近に感じてもらい、地域と入居者様がどのように暮らして行くのが理想かを職員一人一人が考えている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	現状では、まだまだ改善の余地がある為、利用者様はあまり満足されていないと思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ご家族様は職員に「全てを任せます」と言うケースが多いので満足されていると思っている。しかし、遠慮されている可能性もあるので、ご家族が気兼ねなく意見を言える雰囲気在今后作り続けていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 地域や町内会・近所の人と交流が持てるように、行事にお誘いしたり、参加したりしている。又、地域の幼稚園の園児たちがホームに来てお遊戯会や歌を聞かせてくれたり、中学校・高校からもクリスマスに合わせて合唱を聞かせに来てくれたりしている。
 又、同系列のグループホームでの行事にも参加している為、色んな人との交流の機会がある。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム よろこびの家 茉景2階	評価実施年月日	平成20年1月1日
評価実施構成員氏名	高杉, 伊達, 松倉, 笹田, 菊地, 酒井, 尾刀, 田原		
記録者氏名	高杉礼子	記録年月日	平成20年1月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>. 理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>毎日の朝礼にて、復唱し、スタッフルームにも掲示している。新規採用者にはオリエンテーションの中で説明している。</p>		<p>理念については分かりづらいと思っている職員もいる為、全職員で話し合い誰が見ても分かる理念を作っていきたい。</p>
<p>2 理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎日の朝礼で理念を交代で述べ、各階に掲示している。いつでも理念を念頭に置き、日々ケアに努めている。新人オリエンテーション時には理念の大切さと意味を理解して貰えるよう努めている。</p>		<p>理念を実行していくには1、ご本人の心に寄り添い、生き生きと笑顔ある生活が送れるよう支援する。2、馴染みある生活空間を作り、ご本人の力が可能な限り発揮できるよう支援する。3、地域とのふれあいを通し、自由で豊かな心と生活が保てるように支援する。4、家族の方が安心と満足を得られ、ご本人との楽しい時間が過ごせるように支援する。この事が出来ているか、常に職員と話し合いを行っています。</p>
<p>3 家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>広報誌に理念を掲載したり、運営推進会議でも述べている。</p>		<p>運営推進会議で説明は行ったり、玄関先、階段、廊下等に掲示しているがご家族や地域の方達への理念の説明は不十分な面もあるので今後も説明を行っていく必要がある。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4 隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>行事の時等、参加して頂けるように挨拶分を作り1件ずつ訪ねて説明したり、散歩等で挨拶をし交流が図れるよう努めているが、気軽な関係とは言えない。</p>		<p>散歩時等にお会いした時は挨拶を怠らないよう職員間で徹底し、近所の方が気軽に来訪して頂けるように努めたい。</p>
<p>5 地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の夏祭りに参加したり、近くの幼稚園や高校生のボランティアも来られ交流を持っている。</p>		<p>今後、地域との交流が増えるよう当グループホームをより知って貰いさまざまな交流の場に呼んで頂いたり、来て頂けるような関係を作っていけるよう努めたい。</p>
<p>6 事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>近隣住民や町会からのお誘いがあった時は参加出来る体制になっている。町会の行事に参加できる事が無いかと常に町会長さんと話しをしている。</p>		<p>今までは町内会の夏祭りしか参加した事がなかった為、今後は町内会の行事等に参加し、交流を深めていく必要がある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>スタッフ会議で自己評価、外部評価の意義を話し合い、評価の結果を生かし、改善に努めて同じ指摘を受けないようにしている。</p>	<p>職員全員が自己評価の意義を十分に理解出来るよう管理者を中心にスタッフ会議で、その都度話し合い行っていくようにしている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に一度運営推進会議を行い、今後のサービス向上に繋げて参加者の質疑応答で情報の共有化を行っている。ご家族の参加が少ない為、たくさんの方に参加して頂くにはどうしたら良いか検討している。</p>	<p>御家族の参加が少なく、意見交換が思うように行えていない。開催時間や日程の見直し、参加しやすいような環境を作りサービスの向上に努めていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>現在、市町村主催の勉強会に参加しているが、関わりは運営推進会議に限られている。</p>	<p>今後、市町村と連携を図り、サービスの向上に取り組んでいきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、権利擁護を必要としている利用者様が少ない為、活用はしていない。</p>	<p>今後は必要な制度を利用する利用者様が増える事があるので権利擁護を職員全員が説明できる体制を整えていく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>当施設、全グループホーム内で身体拘束廃止委員がいて、毎月会議を開き防止に努め職員一人ひとりが虐待防止に努め、虐待を起こさない為にはどうしたらよいかスタッフ会議や身体拘束廃止委員会で話し合いを行っている。</p>	<p>身体拘束委員会で事例検討を行い、身体的な虐待、言葉の虐待について話し合っている。又、職員同士でも注意しあえる体制になっている。新入職員には高齢者虐待についての資料を読み感想文を書いて貰い、虐待への意識を高めて貰っている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>ご本人、ご家族に十分説明を行い、理解して頂いた上で契約、解約を行なっている。又不安や疑問等をいつでも気軽に言って頂けるような対応を心がけている。入退居時だけでは十分に伝わらない事があるので説明し対応している。</p>	<p>その都度利用者様、ご家族と話す機会を作り相談に誠意を持って納得して頂けるような説明を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情窓口担当者が明確であり、対応している。利用者様からご不満、苦情を聞かれた時は、全職員で早急に原因究明、改善策を話し合い対応後もご家族や全職員で共有できるように努めている。		ユニットだけで情報共有するだけではなく当法人のグループホームで情報を共有する為、全体管理者会議でも詳しく説明をしている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態については面会時にお伝えし、遠方のご家族には随時、電話でお伝えしている。変化時には電話連絡を行なっている。金銭管理は管理者が行い、レシート、領収書を保存し、面会時に確認して頂き捺印を頂き、請求書に1ヶ月のレシート、領収書、帳簿を同封している。職員の移動や担当者変更の時は面会時にお伝えしている。		健康状態については面会時、遠方の方には電話で報告し安心して頂けるように努めているが、職員全員がご家族に報告出来る体制になっていない部分がある為、職員全員が利用者様の健康状態を把握し、ご家族に報告できるようにしていきたい。金銭管理は各階の管理者が1週間に1回違う階の金庫の確認を行っている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情は管理者を中心に職員で対応し、会議を開き苦情の原因究明や改善策を検討し、苦情処理簿を作成し、職員全員が情報を共有出来るように努めている。		全体管理者会議で苦情を受けた時から対応後までを詳しく報告し情報を共有し今後、同じ苦情を受けないように努めている。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議や個人面談で職員の意見や提案を聞き、全員で話し合い共有出来るように努めている。会議等で出た意見は業務等に反映している。		今後も、職員の意見を聞ける場を設け、管理者との信頼関係を深めていく環境作りを行っていく。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事等の時は職員の数を増やす等の勤務表の作成、調節を行なっている。勤務体制もスタッフ会議で話し合い、変更をしている。		今後は必要に応じた勤務時間の変更を職員全員で話し合い決定していきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	極力異動は行なわないようにしているが、やむをえない場合は事前に利用者様に話しをしている。退職や異動の希望があった時は理由を聞き、やむをえない理由でない限りは残れるよう原因を取り除くよう対応している。		やむをえない退職、異動は利用者様のダメージを最小限に抑える対応策を考えていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>定期的な勉強会を行ったり、法人外での研修の呼びかけ、参加を行なっている。参加希望者には、勤務調節を行ない参加して貰い、報告書を作成して他の職員にも共有出来るようにしている。</p>	<p>職員の技術や知識が向上するように法人内外の研修に参加できるよう管理者が必要性を伝えている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域をブロック分けにして、その中で定期的に勉強会や交流する機会を設けている。又、当法人内外ではパソコンを使いメール、掲示板等で情報交換を行っている。</p>	<p>今後、他の同業者と連絡を取り合い、意見の交換、勉強会に管理者だけでなく職員全員が参加できるようにしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>悩みやストレスに対し、いつでも気軽に相談出来るよう管理者は環境作りを行っている。又、職員同士気兼ねなく意見が言い合えるよう努めている。定期的に交流会等も行っている。</p>	<p>職員同士のコミュニケーションが十分に図れていない部分がある為管理者が中心となり、職員のストレスの軽減と工夫を図り働きやすい環境づくりに努めていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者を中心に職員一人ひとりの目標を把握し日々向上心を持って仕事出来るよう努めている。人事考課と面談を行い、一人ひとりの努力や実績、意見を大切に、お互いが尊重出来る職場環境を作っている。</p>	<p>職員の個人面談や年1回の人事考課でアドバイスをしている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者と管理者が中心になり、生活するにあたって本人が困っている事、不安な事を初期の段階から利用後も常に職員間で把握するように努め、生活の中で常時不安、悩みを聞く機会を作っている。</p>	<p>入居されてからは、スタッフ会議やカンファレンス会議で話し合い利用者様の希望する事や不安な事を職員間で情報を共有しケアに繋げている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者が、ご家族との面談の時に現状や困っている事、不安な事等を聞き、今後についての相談、助言をしている。</p>	<p>誰でも気軽に相談、見学が出来るように、事前に連絡がなくても受け入れ、困り事等聞いて助言を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプランの作成において、ご本人、ご家族が必要としている支援を第1のサービス内容にしている。利用者一人ひとりの過去の経験を活かしたケアサービスに向けて情報収集に努めている。		収集した情報から利用者様に合ったケアサービスを検討している。又、残存能力を把握し取り入れていきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人が馴染めるように職員は利用者様の場の雰囲気に合わせたサービスをしており会話やコミュニケーションも職員一人ひとりが工夫を行なっている。拒否された場合は無理強いせず時間をかけて声かけをしている。利用者様が今一番何を必要としているのかを重視しながら観察を行い職員間で検討し利用者様本位の生活を目指している。		今まで生活してきた習慣をなるべく変えないようにする事で精神的に落ち着いた生活が出来るよう努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	普段の何気ない会話から表情を汲み取り個々に合ったケアを行なうよう努めている。利用者様を人生の大先輩である事を忘れず様々な人生の経験の中での知識、知恵を学ぶ事を忘れず一緒に過ごす事で利用者様が安心して生活して頂けるよう心掛けている。		利用者様の出来ること、出来ないことを見極め、出来ない時には職員がお手伝いし達成感を職員と共に分かち合っている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の要望を取り入れて利用者様と接しており職員とご家族と一緒に利用者様を支えていく関係を作っている。ご家族の事情によって面会にあまり来られない方には利用者様の生活状況を電話等で報告し支援の要望等があればその都度対応している。		面会時や電話等で利用者様の生活状況を報告し、ご家族からも希望や提案を頂き支援の参加をして頂いている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員間で情報を共有し利用者様の状況報告を面会時や遠方の方には電話で行っておりより良い家族関係が築けるよう支援している。		面会時や電話等で状況報告を行っている。又、状態変化や緊急時等ご家族に協力して頂かなければならない時には、連絡をとる体制になっている。ご本人とご家族がより良い関係を築けるよう行事等の参加を今後も積極的に行っていきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	昔馴染みの関係が途切れないうお友達や知人との面会を設けていたり、長年通っていた美容室やお店等も利用されている。		長年、通っている美容室等に希望があれば職員と一緒にいたり自宅へいったりと希望にあった支援をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人ひとりの性格を把握し仲の良い方同士が同じテーブルで食事をして頂く等コミュニケーションが図れるよう努めている。又一人である利用者様には職員が話しかける等して寂しさを感じてもらわないように努めている。		孤立しがちな利用者様にはレクリエーションやドライブ、散歩等の声かけを行い、利用者様同士の関係が上手に図れるよう支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在サービス利用が終了しても継続的な関わりを必要とする方がいない為評価困難である。		今後は希望される方についてはきちんと対応が出来る体制を作っていく必要がある。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画、ケアプラン等からご本人、ご家族から暮らし方の希望、意見を聞き一人ひとりの生活が充実し満足して頂ける思いを大切にしている。		ご本人、ご家族から希望等を聞き、カンファレンス会議で職員間で話し合い納得の出来る充実した生活が送れるよう支援している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご本人、ご家族から今まで生活されてきた事を聞きフェイスシートを作成している。		一人ひとりの生活歴を把握し、馴染みの生活環境で生活ができるよう支援している。 又、ご家族からも話を聞き、情報収集を行っている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の記録や朝、夕の申し送りで利用者様の1日の過ごされ方、心身状態を把握するよう努めている。		個別ケアが出来るよう一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状態等を申し送りで職員が共有している。又、日々の会話の中からストレスが溜まっていないか等の心のケアも大切にしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族と話し合いや会議等を開き、色々な意見を取り入れながら介護計画、ケアプランの作成に反映するように努めている。		3ヶ月毎にケアプランの見直しを行い、ご本人やご家族の希望を聞き、それをもとに適切な介護計画、ケアプラン作りをし、職員全員が計画を把握し取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に一度または状態変化時には、モニタリングを行いケアの見直し、改善を図りご本人、ご家族の意見も計画に反映している。		3ヶ月毎にケアプランの見直しを行い、ご本人やご家族の希望を聞き、それをもとに適切な介護計画、ケアプラン作りをし、職員全員が計画を把握し取り組んでいる。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一人ひとりのケアの記録が毎日行なわれ、職員全員が情報を把握出来るようになっている。記録は健康状態に関わる事や生活面にわたりチェックされている。		記録、申し送りは毎日行われ、気づいた事等は職員同士で話し合い今後の介護計画の見直しや改善に努めている。今後も適切な計画を立てれるよう努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人やご家族の要望が取り入れられるように話し合いを行い様々な対応を行なっている。		今後も利用者様、ご家族の希望を出来る限り実行していく事でご家族からも信頼される関係が作られていく。柔軟な支援が出来るよう努めていかなければならない。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣の幼稚園、高校の協力により行事への参加等支援をして頂いている。防火訓練を年2回行い消防に協力をお願いしている。		地域の資源の活用に偏りが見られる為、今後は多方面に協力と理解が得られるように努めていく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居時に他の機関を利用していた場合はその機関の担当者と情報交換を行なっている。又、地域の他のケアマネージャーとの連携体制もとっている。		今後は必要に応じて積極的に活用できるような支援体制の確立が必要と思われる。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護やケアマネジメントについてはご本人の意向や必要性により地域包括支援センターを連携、協働できる体制は整っているが、今は利用されている方はおられない。		多様化する利用者様のニーズに応える為にも地域包括支援センターとの連携、強調体制を強化していく必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者様一人ひとりのかかりつけの医療機関がある。又医療連携の看護師が週1回健康管理で訪問している。体調不良時には医療連携看護師に相談し指示を受け対応している。		一人ひとりのかかりつけ医に職員と一緒に受診し相談したり指示をもらったりしている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ご家族と相談し、担当医への受診時に相談を行い、助言が受けられるようになっている。		担当医へ受診し、相談、アドバイスを貰っている。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携の看護師が健康管理や相談等の支援を行なっている。体調に変化があればその都度、連絡が取れる体制になっている。連絡、相談は24時間体制でいつでも対応が可能である。		医療連携看護師と24時間体制で連絡が取れるようになっており緊急時の相談、助言ができる体制になっている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	管理者が中心となり、入院先病院と連絡、情報交換を行い、退院に向けての支援を行なっている。		入院先の担当医と症状等や早期退院に向けての連携をとり今後の対応等の話し合いを行っている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族が終末期をグループホームで看取りたいとの希望があった場合は主治医と相談の元、対応できるようになっているが全ての主治医と連携がとれているとは言えない。		今後、すべての主治医と協力が出来き、利用者様が安心した終末期が送れるようにしていく必要がある。現段階では看取りを行った経験はないが、利用者様、ご家族の要望に応えられるよう各種サービスと連携をとって対応していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	担当者会議の中で「できること、できないこと」を話し合い、担当医を中心に今後の変化に備え検討を行っている。		今後も医療連携機関と連携をとりながら支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他の居宅へ移り住む際や、入居の際は前の居宅の関係者に利用者様の情報収集を行い、住替えによるダメージを最低限に抑えるよう努めている。		当ホームが開所して2年近く経過するが、まだ、他の居宅への希望がない為、今後希望があった際には住替えによるダメージ軽減に努めていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりのプライバシー等を考慮した対応に努めている。又、会議等の議事録にはご本人の名前を記入せずに居室番号を用いている。		ご本人、ご家族に個人情報の保護について安心感を持って頂けるように努めていく。記録、個人情報等は鍵のかかる場所に保管している。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	茶話会での飲み物等を出す時は、職員が勝手に出さずに数種類の飲み物をだしてご本人の希望を聞いている。また、外食や出前の時にも同様にしている。自己決定が出来る声がけを行い説明を行っている。		一人ひとりの好みは異なるのでコミュニケーションを大切にし、好みについて理解を深めたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り一人ひとりのペースや希望を大切にし、個別の買い物や入浴等その日の気分や希望を聞き対応している。		その日の希望を聞き支援しているが、まだ十分とはいえない。今後は個別対応を心がけ取り組んでいきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問理容、美容についてはご本人、ご家族と相談しながら行われている。又、かかりつけの美容院に行かれている方もいる。季節に合った洋服の声がけやご本人が選出出来る場面を作りオシャレを楽しんで頂いている。		出来る限りご本人の希望や思いを大切にしている。行きつけの美容室に行かれている利用者様が2名いる。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の会話の中で本人の好きな物、嫌いな物を聞いている。又、食事の盛り付け、配膳、下膳、後片付け等を一緒に行っている。		利用者様一人ひとりの能力に合わせ、取り組み、利用者様と職員と一緒にいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在は飲酒、喫煙をされる方はいない。おやつはご本人の食べたい物を取り入れ買い物に行っている。買い物には入居者様と一緒に行き選んで頂いている。		季節に合ったおやつを出したり、食べたいおやつを聞き作るように今後もして行きたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握し、トイレ誘導を行い、トイレで排泄をして頂くようにしている。排泄に失敗した時は自尊心を傷つけないよう速やかに後片付けをしている。		定期的なトイレの声かけ、誘導を行い、失敗やパット等の使用を減らすようようしている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の曜日や時間を決めず利用者様の希望を聞き、入浴出来るようにしている。ご自分から入浴をしたいと言われない利用者様には職員が声かけを行い、ご本人の意思を尊重している。		夕食後に入浴を希望される利用者様でも、気兼ねなく入浴が出来るよう支援している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間を設けていない為、無理に寝て頂くような事はせずに一人ひとりの体調や習慣に応じ様子観察を行いながら気持ちよく休む事が出来るよう支援している。		夜間の見回りの時声かけを行う等気持ちよく入眠できる環境作りをしている。又、昼寝は居室だけでなく、ソファや畳の上等好きな所で昼寝をして頂いている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者様に家事手伝いをしてもらい自分の役割を感じて頂くような支援をしている。レクリエーションは集団でやるレクリエーションをしたり、将棋、麻雀等少人数で行ったりしている。又、天気の良い日等は近所の散歩に行ったり、買い物兼ねてドライブにいく等気分転換が図れるよう支援している。		利用者様一人ひとりの能力に合った家事手伝いやレクリエーションを行っている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が出来る利用者様には職員の見守りにて買い物を行い、不安のある利用者様、買い物に行かれた時は好きな物を選んで頂き、職員が支払いをしている。		金銭管理帳簿を作成し、領収書等を貼り付け、定期的にご家族に見せて確認の印鑑をもらっている。月末には金銭簿と領収書のコピーをご家族に郵送している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	行事等、外へ出かける時は全員に声かけを行い参加して頂くようになっている。又、ドライブや散歩、買い物の希望がある時は職員と一緒にいる。ご自分から言われない利用者様には職員が声かけを行っている。		自宅に行かれたり、毎日近所の散歩を希望される方がいるので今後も希望を聞き、外へ出る機会を多くしていきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行きたい所があれば希望を聞いたり、職員が提案したりし、出かけている。又、他のユニットの利用者様達と一緒に出かけられる機会を作ったり、ご家族の面会時には外出されたりしている。		近くに温泉が新しく出来たので一緒に行く等、今まで行った事のない場所に行く等していきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホームに公衆電話があり、気軽にご家族やご友人に電話が出来るようになっている。又、子機電話があり居室にて話せるようになっている。		今後は電話だけでなく、手紙を書いて頂き、ご家族に送る等していきたい。ご自分で書けない利用者様には職員が代筆するようしていきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族が面会に来られた時には、居室でゆっくり話しをしたり、過ごして頂けるよう心掛けている。職員は明るく元気に挨拶するよう心がけている。		ご家族と居室で過ごされている時は、飲み物をお出しした後は職員は居室へお伺いしないよう心掛けている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会や月1回に身体拘束廃止委員会での事例検討について職員間で検討しており、身体拘束への認識を高めている。		毎月第3火曜日に身体拘束廃止委員会があり出席して検討している。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室は入居様が自由に鍵を掛けられるようになっているが、職員は原則として鍵は掛けていない。利用者様ご本人の希望により居室から鍵をかけて夜間、過ごされる方がいる。		鍵をしていない為、出入りが自由である。利用者が一人で出て行かれようとしても止めはしないで職員も一緒に同行し散歩等を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者様のプライバシーに配慮しながら、利用者様の所在や様子を把握している。また、安全確認もしている。夜間は防犯上、玄関の鍵は掛けている。		日中は職員の人数もいるが、夜間は職員一人の為、十分に目を配る事が出来ない部分がある為、対応を改善していきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意が必要な物(洗剤、包丁、薬)は鍵のかかる所に保管している。毎日使う食器洗剤等は利用者様の手の届かない所や、見えない所に保管している。		利用者様が使用する時は職員が付き添い、見守りを行っている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット、インシデントについてはリスクマネージャーを中心に職員一人ひとりが重大性を把握するとともにスタッフ会議等で話し合い事故防止に取り組んでいる。又、緊急時や火災時へのマニュアルも作成しており管理者を中心にマニュアルの把握に努めている。		インシデント、アクシデントが発生した時は、早急にスタッフ会議を行い、原因の解明を行い、再発防止に努めている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成しているが、全職員が緊急時に対応できるまでのレベルに至っていないと言えない。		今後は定期的に勉強会等を行い、職員への参加の声かけの徹底を行い、重要性を理解してもらう必要がある。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は消防署の協力のもと、年2回行っているが、利用者様が確実に避難できる方法は身につけていないと思われる。		消防署と訓練を行い、協力は得られているが、近隣住人の協力を今後、得られるようにしていかなければならない。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時や担当者会議で今後起こり得るリスクを医療、介護の立場でご家族に説明し対応策を検討している。		起こり得る、リスクや症状をご家族に説明し話し合っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>普段の会話や食事量、水分量、入浴時、血圧測定等で一人ひとりの健康観察を行っている。又、週に1回医療連携看護師の訪問時には指示をもらい対応している。休日、夜間でも医療連携看護師や担当医に連絡し指示をもらい対応している。</p>	<p>利用者様一人ひとりの体調の変化はその都度申し送りをを行い、職員が把握している。医療連携看護師とは24時間体制で連絡がとれるようになっている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の処方箋を見たりして利用者様の服薬の状況を把握している。服薬時は見守り、声かけを行い一人ひとりにあった用法、用量を守るように努めている。</p>	<p>間違いがないように、服薬前には名前、朝、昼、夕の確認を行っている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>申し送り時に必ず確認を行い、便秘気味の利用者様には、水分補給の声かけをしたり、適度な運動や腹部マッサージを行っている。必要があれば医療連携看護師に相談し対応している。</p>	<p>食事面でも献立を考え、なるべく薬に頼らず自然に排便が出来るようにしていきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、歯磨き、うがいの声かけを行っている。ご自分で出来ない利用者様には、職員がお手伝いし清潔保持に努めている。歯科受診や往診も行っている。</p>	<p>口腔内が不潔になると肺炎等の病気につながる事を職員は把握している。必要な利用者様はケアプランに載せている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの食べる量を考慮し盛り付けをしている。水分も一度にでなく、こまめに飲んで頂くようにしている。好き嫌いを把握し1日の食事量、水分量を記録に残している。</p>	<p>食事に偏りがないよう職員は献立作りをしている。献立作りには利用者様に参加して頂き希望を聞いている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症については症状別マニュアルを作成している。外出後のうがい、手洗いの徹底をこころがけている。</p>	<p>医療連携と協力し対応等を行っている。感染症についての勉強会も行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所、調理器具等は毎日、消毒を行い、衛生管理に努めている。食材は古い物や傷んでいる物がなく毎日、確認している。</p>		<p>食材に関しては冷凍、冷蔵し出来るだけその日のうちに調理し使いきるようにしている。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関に入ってすぐにソファーがありくつろげる空間になっている。</p>		<p>玄関前にはもみじを植えていて季節感をだしている。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間、廊下にはソファが設置されていて、いつでも利用者様が座り、休む事ができる。浴室もゆっくり入浴ができるよう湯船、洗い場も広いスペースになっている。トイレには芳香剤を置き、毎日掃除を行い清潔感ある空間作りに取り組んでいる。</p>		<p>今後さらに家庭的で居心地の良い空間で生活出来るよう工夫した環境作りに取り組んでいきたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間、廊下のソファに座り、自由に利用者様同士がお話されたり、一人で新聞や雑誌を読まれたり、テレビを見られたり、気軽に過ごされている。</p>		<p>多目的室の窓から外の景色を見ながら職員や利用者様同士がお話されたりしている。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の時にはご家族にご本人が使い慣れた家具等を持って来て頂くよう説明を行っている。居室にはご本人が使い慣れたものや馴染みのあるものがあり居心地の良く過ごせるよう工夫をしている。</p>		<p>居室に仏壇を置かれている利用者様もいる。利用者様から置きたい物等を聞き、ご家族の協力で持って来て頂いたり、購入している。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>天候や気温にもよるが居室、ホールの窓を1日数回開け、空気の入れ替えを行ったり、こまめに換気し温度調節を行っている。</p>		<p>居室の窓開けは利用者様の体調を考え行っている。又、空気乾燥しないように、濡れタオル等を置き対応している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム全体がバリアフリーになっており、ほぼ全て(廊下、浴室、トイレ)に手すりが設置されている為、安全面に配慮されている。</p>	<p>畳のスペースには段差がある為、職員が一緒に行き、安全確認をしている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの力を把握し出来ることを行って頂けるよう声かけ、見守りを行い、失敗等の時はプライドを傷つけないよう職員がさりげなくお手伝い出来るよう対応に努めている。</p>	<p>出来ることを強制するのではなく職員と楽しく出来るように声かけを行っている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>駐車場でバーベキューをしたり花火大会をしたりしている。天気の良い日にはウッドデッキに出て日向ぼっこ等もしている。</p>	<p>今後も季節感を味わって楽しんで頂けるよう取組んでいきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>生活暦を参考にし、ご本人やご家族の意向を尊重し思いや願いが叶うよう心かけている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>ゆとりあるケアを目標とし職員と一緒にお茶を飲みながら話ができる時間を大切にしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>一人ひとりの生活のペースを尊重しのんびり、楽しく暮らして頂いている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>家事手伝い等は利用者様と一緒にいる事で役割が持て生き生きとした表情が見られる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>希望に沿った対応が出来るよう対応している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>医療連携看護師が週1回、健康管理の為、訪問をしていて24時間体制で常に連絡が取れるようになっている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>その時々々の状況に応じ、柔軟な対応をしており、安心した生活を送って頂いている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>面会時やご家族から連絡があった時は話を聞き、その都度、解決策を職員で話し合っている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>頻度はそれぞれ異なるが友人等の面会がある。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	都合により参加出来ないご家族や関係者もいる為増えているとはいえないが徐々に理解や興味を持って頂けるように努めている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	認知症に関しての仕事を身近に感じてもらい、個人個人の目標に向けて熱心に取り組み、責任や役割を十分にいかして活気のある仕事ができている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	不満や苦情の訴えがある時は随時対応しているので満足されていると思われるが、今後も利用者様の気持ちを十分に汲み取れるよう努めていきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ご家族からの要望は随時対応しているが、要望等ないご家族もいる為、こちらから引き出す必要がある。今後も全てのご家族に満足して頂けるよう努めていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

地域や町内会・近所の方と交流が持てるように、行事にお誘いしたり、参加したりしている。又地域の幼稚園の園児たちがホームに来てお遊戯会や歌を聞かせてくれたり、中学校、高校からもクリスマス会に合わせて合唱を聞かせに来てくれたりしている。
又、同系列のグループホームでの行事にも参加している為、色々な人との交流の機会がある。